

産業廃棄物処理計画書

令和6年6月7日

神奈川県知事 殿

提出者

住 所 東京都千代田区紀尾井町3番6号 紀尾井町パークビル

氏 名 岩田地崎建設株式会社 東京支店
取締役常務執行役員支店長 山崎 智生
(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 03-6261-1583

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	岩田地崎建設株式会社 東京支店		自主管理事業登録番号 (2692)
事業場の所在地	東京都千代田区紀尾井町3番6号 紀尾井町パークビル TEL(連絡先): 03-6261-1583		
計画期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年間)		
当該事業場に関する事項			
① 事業の種類	Dー建設業 (具体的には)		大分類:建設業 中分類:総合建設業
※ 前年度実績を記入、医療機関は前年度末時点の病床数を記入。	製造業	製造品出荷額	百万円
	建設業	エリア内元請完成工事高	百万円
	医療機関	病床数	床
	その他の業種	売上高	百万円
(上記項目に該当しない場合にはこちらに記載をしてください。)			
完成工事高 223億782万円 (東京支店)			
③ 従業員数	186名 (東京支店)		
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別添 処理工程図のとおり		
※ 産業廃棄物の種類ごとに記入			

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別添 管理体制図のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

【前年度(令和5年度)実績】	
産業廃棄物の種類数	7 種類
① 排出量	1,889.1 t
(これまでに実施した取組)	
① 現状	
施工計画書・施工要領書・手順書等に廃棄物の発生・排出抑制に関する計画を策定し実施。	
【(令和6年度)目標】	
産業廃棄物の種類数	0 種類
① 排出量	0.0 t
(今後実施する予定の取組)	
② 計画	
令和5年度で神奈川県管轄の工事が完了したため、令和6年は0tの計画としています。今後、工事受注に伴い産業廃棄物を排出する際は、下記の様に実施いたします。 受注高により産業廃棄物の発生量に増減があるが、工事施工においては、廃棄物の発生・排出抑制に関する計画を策定し実施する。なお、計画に際しては、下記事項について考慮する。 ・廃棄物の発生が少ない工法の検討 ・梱包材の簡略化 ・無駄のない加工及び組立 ・余剰資材の少ない搬入計画	

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
	<ul style="list-style-type: none"> ・分別例：廃プラスチック、木くず、金属くず、コンがら、アスがら、廃石膏ボード、等(その他、施工場所のスペースに応じて実施) ・現場内に廃棄物ストックヤードや分別ボックスを設置し、種類毎に標示板を掲示して分別している。
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
<ul style="list-style-type: none"> ・分別例：汚泥、廃プラスチック、木くず、金属くず、コンがら、アスがら、廃石膏ボード、等(その他、施工場所のスペースに応じて実施) ・建設工事の特性から、廃棄物の種類は工事内容や工法により異なるが、分別可能な廃棄物については、今後も上記同様、分別を行う。 	

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

【前年度(令和 5 年度)実績】						
②+⑧ 自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0.0	t	* 種類ごとの前年度自ら再生利用量は、別紙のとおり。			
(これまでに実施した取組)						
① 現状						
自ら再生利用を行った産業廃棄物はない。						
【(令和 6 年度)目標】						
②+⑧ 自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0.0	t	* 種類ごとの本年度自ら再生利用量は、別紙のとおり。			
(今後実施する予定の取組)						
② 計画						
実施予定なし。						

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

【前年度(令和 5 年度)実績】						
⑤ 自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0.0	t	* 種類ごとの前年度自ら熱回収を行った量は、別紙のとおり。			
⑦ 自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0.0	t	* 種類ごとの前年度自ら中間処理により減量した量は、別紙のとおり。			
(これまでに実施した取組)						
① 現状						
自社では中間処理は行っていない。						
【(令和 6 年度)目標】						
⑤ 自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0.0	t	* 種類ごとの本年度自ら熱回収を行う量は、別紙のとおり。			
⑦ 自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0.0	t	* 種類ごとの本年度自ら中間処理により減量する量は、別紙のとおり。			
(今後実施する予定の取組)						
② 計画						
実施予定なし。						

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

		【前年度(令和5年度)実績】		
		③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0.0	t * 種類ごとの前年度自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量は、別紙のとおり。
		(これまでに実施した取組)		
① 現状		自社では埋立処分及び海洋投入処分は行っていない。		
		【(令和6年度)目標】		
		③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0.0	t * 種類ごとの本年度自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う量は、別紙のとおり。
		(今後実施する予定の取組)		
② 計画		実施予定なし。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

		【前年度(令和5年度)実績】		
		⑩ 全処理委託量	1,889.1	t
		⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	135.6	t
		⑫ 再生利用業者への処理委託量	1,886.5	t
		⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	2.6	t
		⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0	t
		(これまでに実施した取組)		
① 現状		<ul style="list-style-type: none"> ・適正な産業廃棄物の処理委託契約を行うため、「建設廃棄物処理委託契約書 確認書」を活用し、事前の確認を行っている。 ・産業廃棄物委託契約書の電子契約についても、店社の事前確認を行っている。 		

【(令和 6 年度)目標】			
② 計画	⑩ 全処理委託量	0.0	t
	⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0	t
	⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.0	t
	⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0	t
	⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0	t
(今後実施する予定の取組)			
<ul style="list-style-type: none"> ・適正な産業廃棄物の処理委託契約を行うため、「建設廃棄物処理委託契約書 確認書」を活用し、事前の確認を行う。 ・優良産業廃棄物処理業者認定制度において認定された、収集運搬業者並びに処理業者との委託契約を推進する。 ・その他、「多量排出事業者の産業廃棄物処理計画」(別添)に従い、適正に処理を行う。 			
※ 事務処理欄			

* 種類ごとの本年度処理委託量は、別紙のとおり。

備考

- 1 この様式は、前年度(令和5年度)の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成し、提出してください。

また、前年度(令和5年度)の産業廃棄物の発生量が1,000トン未満の事業場にあっては、神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市が推進する廃棄物自主管理事業へ参加するにあたり、事業場ごとに1枚作成し、提出してください。
- 2 当該年度(令和6年度)の6月30日までに提出してください。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入してください。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類(中分類)の区分を記入してください。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入してください。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入してください。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入してください。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入してください。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付してください。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入してください。
- 7 第5面の※欄には、何も記入しないでください。

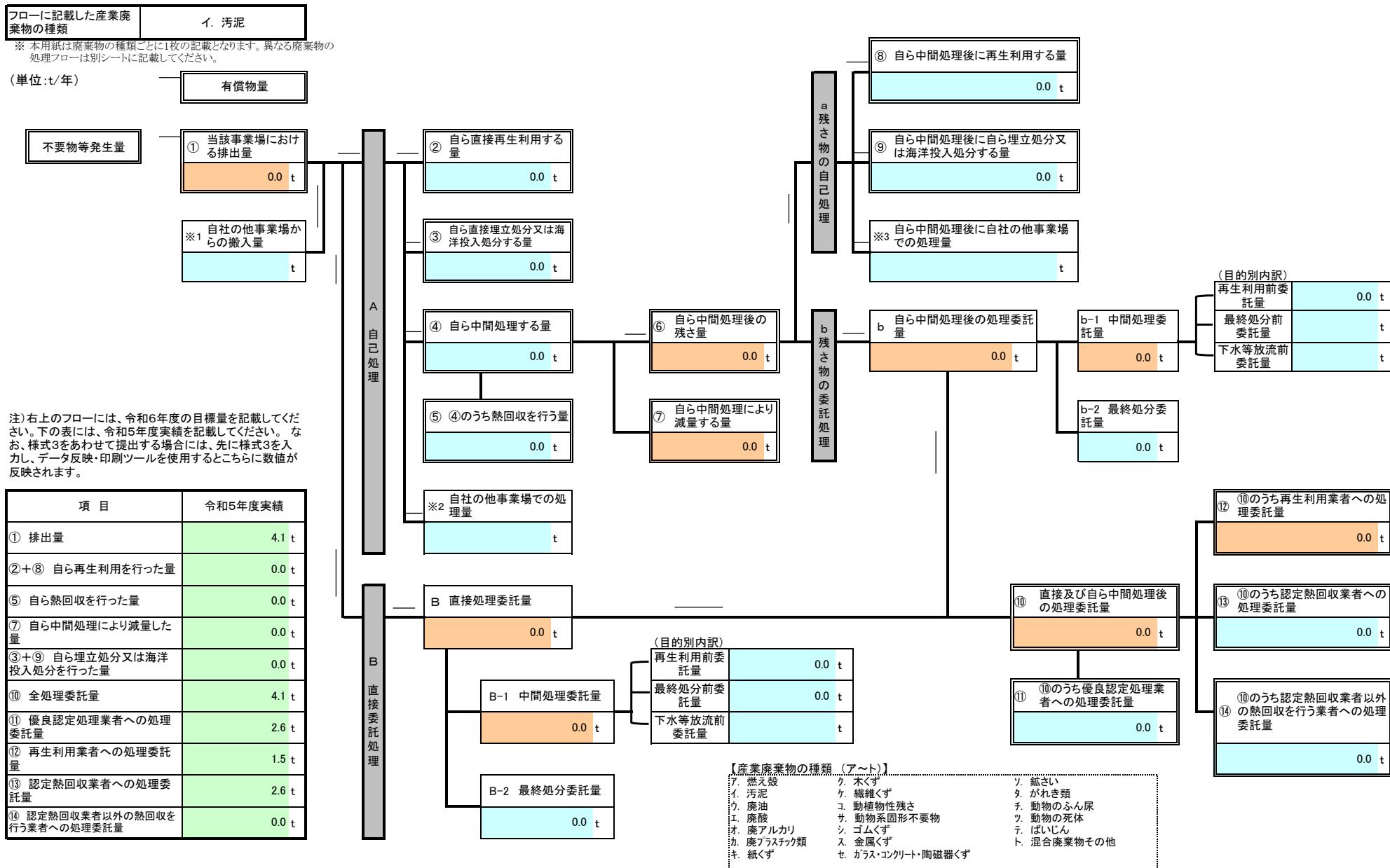
産業廃棄物処理計画書

2-2	法定 ○	自主
-----	---------	----

事業場名称 : 岩田地崎建設株式会社 東京支店

別紙処理フロー

令和6年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画



産業廃棄物処理計画書

2-2	法定	自主
	○	

事業場名称 : 岩田地崎建設株式会社 東京支店

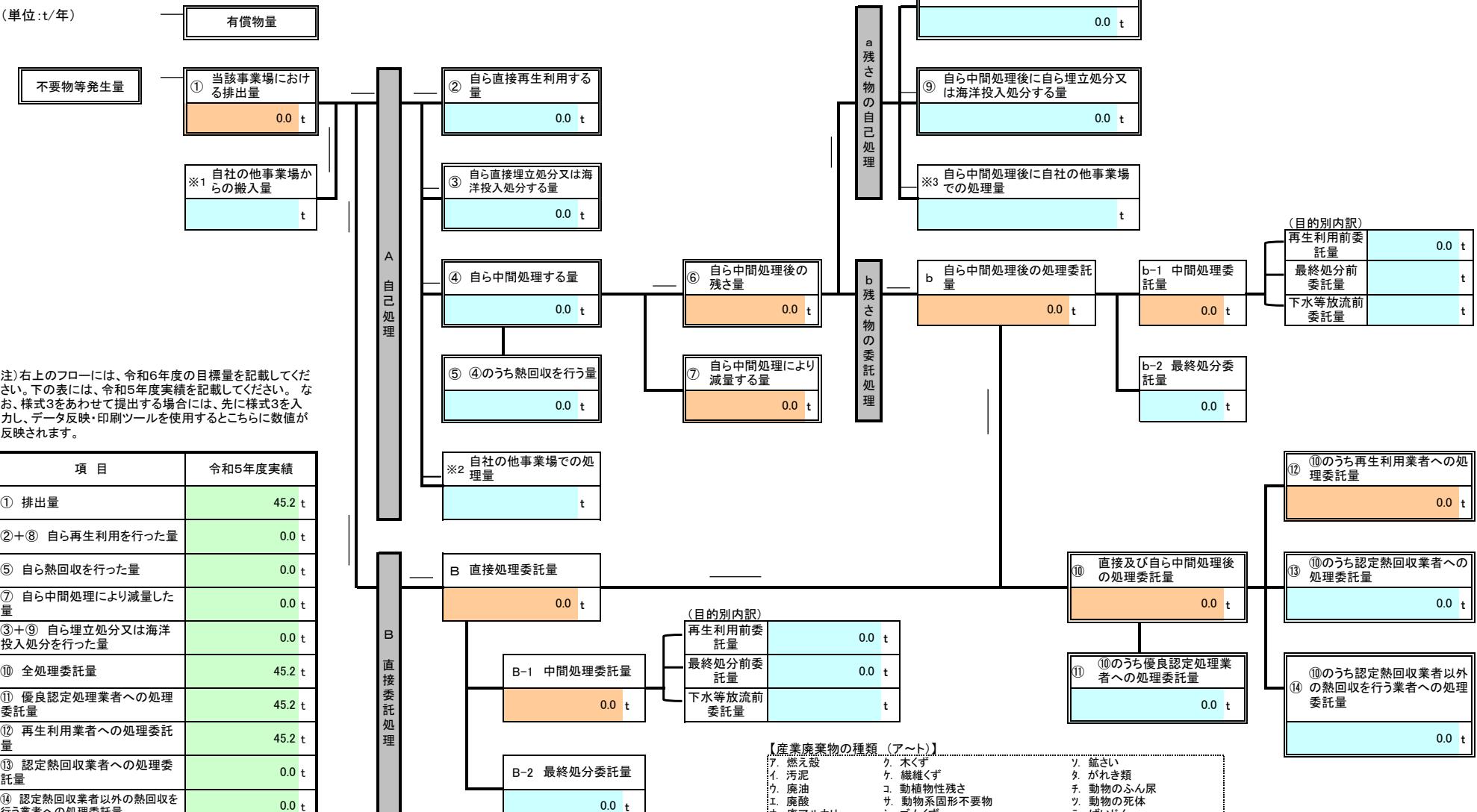
別紙処理フロー

令和6年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	力. 廃プラスチック類
------------------	-------------

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(单位:t/年)



注)右上のフローには、令和6年度の目標量を記載してください。下の表には、令和5年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和5年度実績
① 排出量	45.2 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	45.2 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	45.2 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	45.2 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

【産業廃棄物の種類（ア～ト）】

7. 燃え殻	ケ. 木くず
1. 汚泥	ケ. 繊維くず
9. 燃油	コ. 動植物性残さ
工. 廃酸	サ. 動物系固形不要物
オ. 廃アルカリ	シ. ゴムくず
九. 廃ラスチック類	ス. 金属くず
キ. 紙【ノイズ】	ト. ポリコ. ポリウレタン樹脂品等

- リ. 鉛さい
- タ. がれき類
- チ. 動物のふん尿
- ツ. 動物の死体
- テ. はいじん
- ト. 混合廃棄物その他

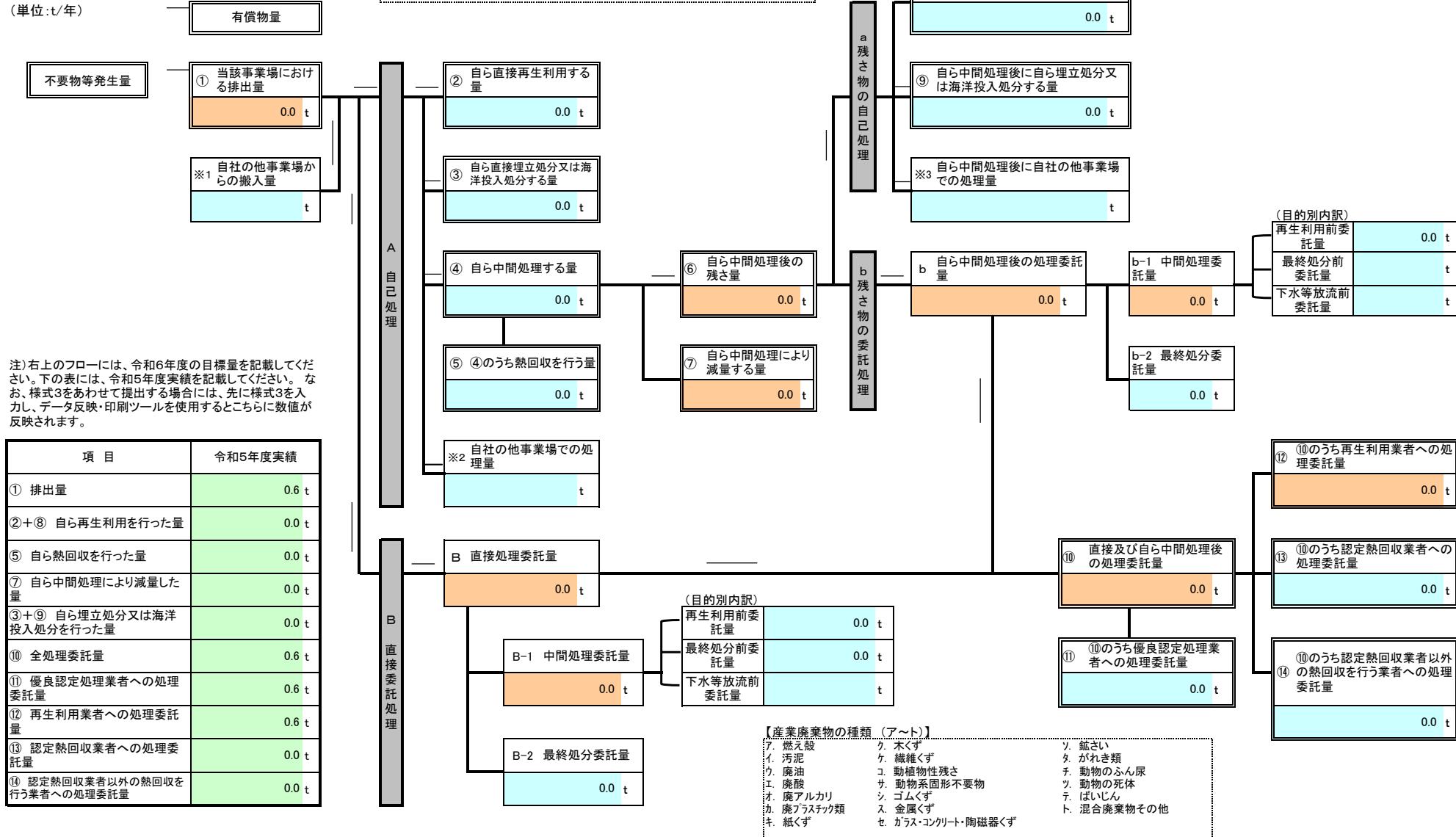
産業廃棄物処理計画書

2-2	法定 ○	自主
-----	---------	----

別紙処理フロー

令和6年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

「紙くず」には業種指定があり、該当業種以外では一般廃棄物となり、報告対象外です。
【該当業種】バルブ、紙又は紙加工品の製造業、新聞業(新聞取扱を使用して印刷発行を行ふもの)、出版業(印刷出版を行うもの)、製本業、印刷物加工業、建設業(工作物の新築、改築、除去に伴つて生じたもの)



産業廃棄物処理計画書

2-2	法定	自主
	○	

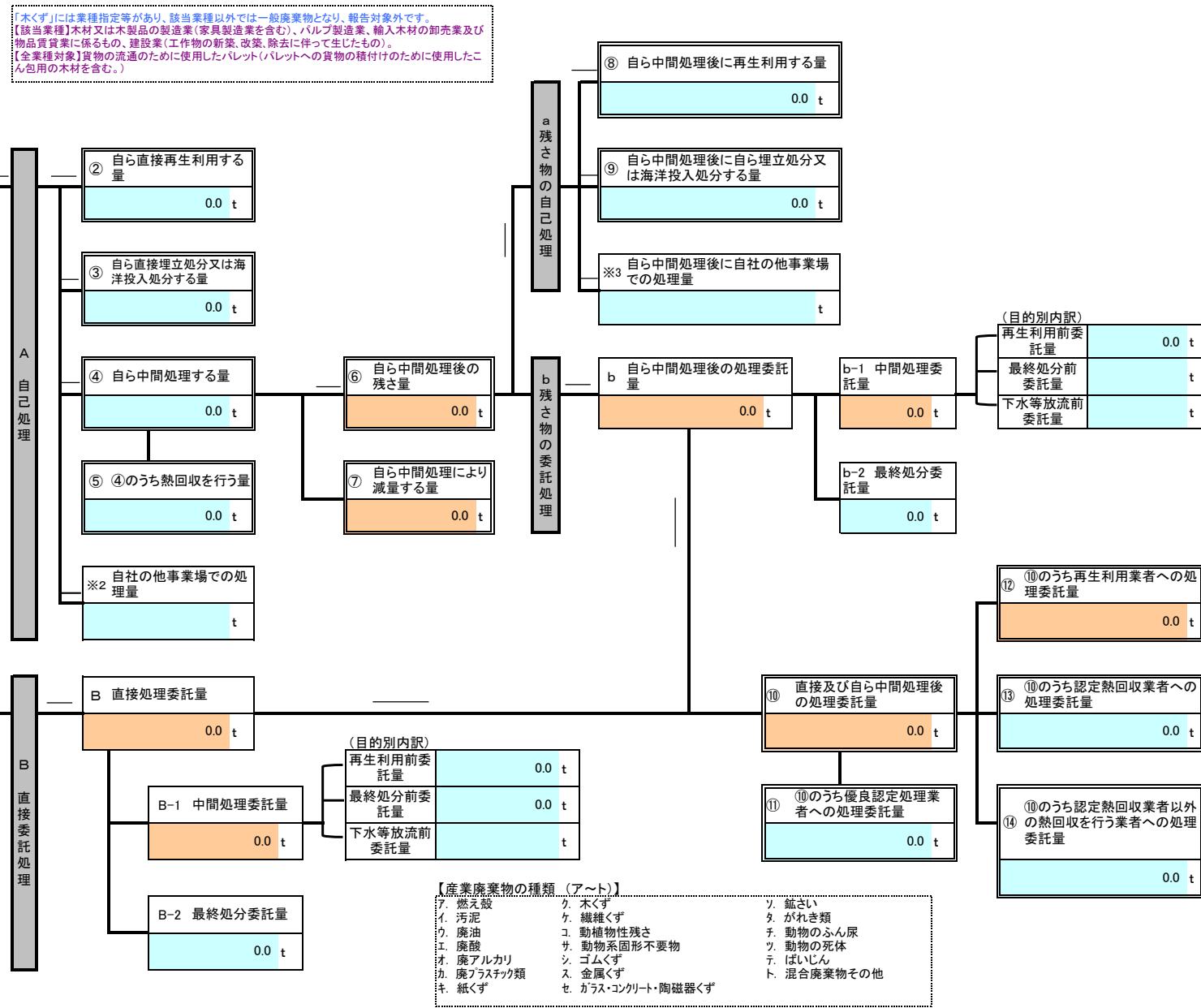
別紙処理フロー

令和6年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	ク. 木くず
※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。	
(単位:t/年)	→ 有償物量
→ 不要物等発生量	→ ① 当該事業場における排出量 0.0 t
→ ※1 自社の他事業場からの搬入量	t

注)右上のフローには、令和6年度の目標量を記載してください。下の表には、令和5年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和5年度実績
① 排出量	70.3 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	70.3 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	44.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	70.3 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t



産業廃棄物処理計画書

2-2	法定 ○	自主
-----	---------	----

事業場名称 : 岩田地崎建設株式会社 東京支店

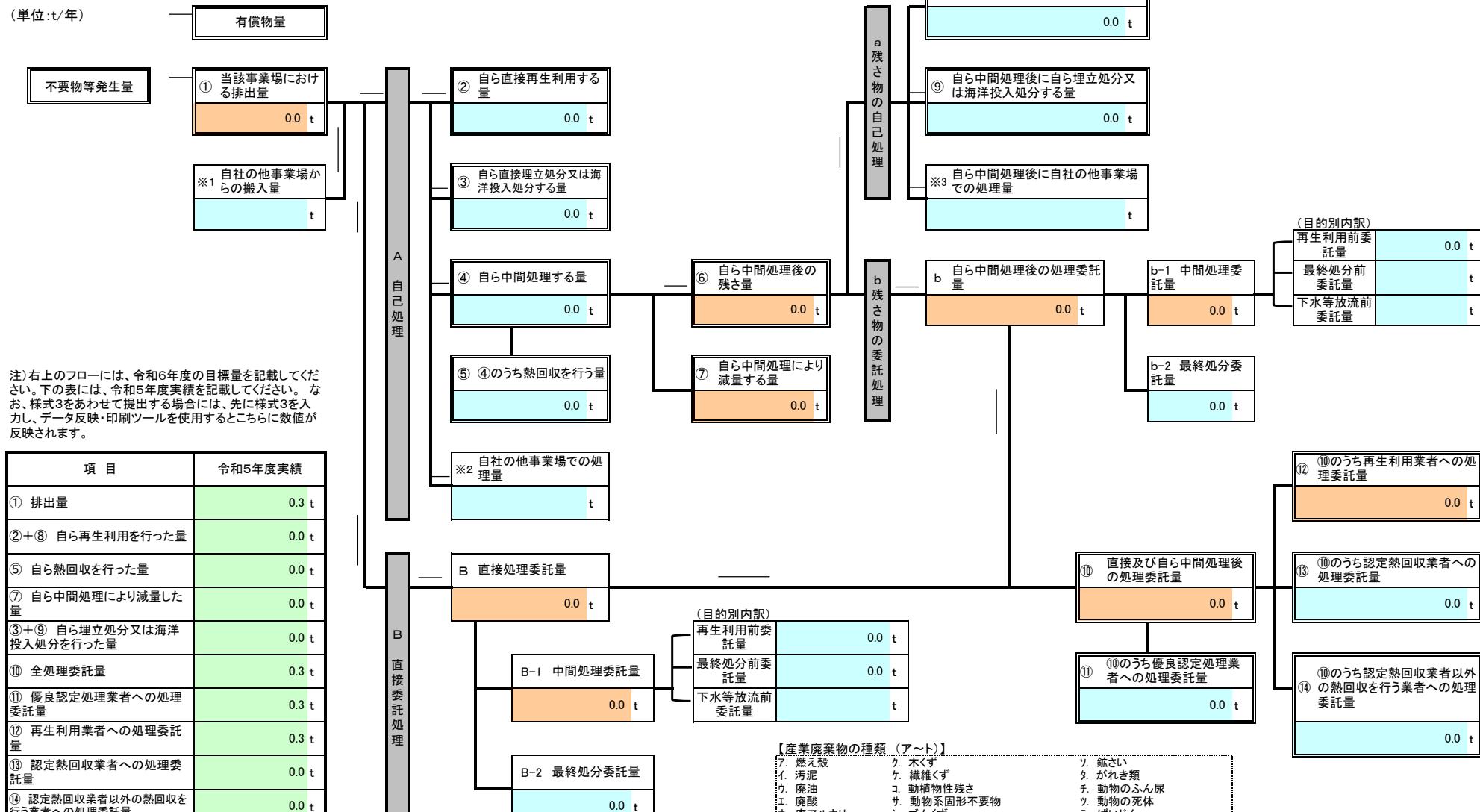
別紙処理フロー

令和6年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
------------------	---------------------

※本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(単位:t/年)



注)右上のフローには、令和6年度の目標量を記載してください。下の表には、令和5年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するごちらに数値が反映されます。

項目	令和5年度実績
① 排出量	0.3 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	0.3 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.3 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	0.3 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

【産業廃棄物の種類（ア～ト）】

- ア. 燃え殻 ク. 不干性
イ. 汚泥 ケ. 繊維くず
ウ. 廃油 コ. 動植物性残さ
エ. 廃酸 サ. 動植物系固形不要物
オ. 廃アルカリ シ. ゴムくず
カ. 廃プラスチック類 イ. 金属くず
キ. 紙くず セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず
ト. 混合廃棄物その他

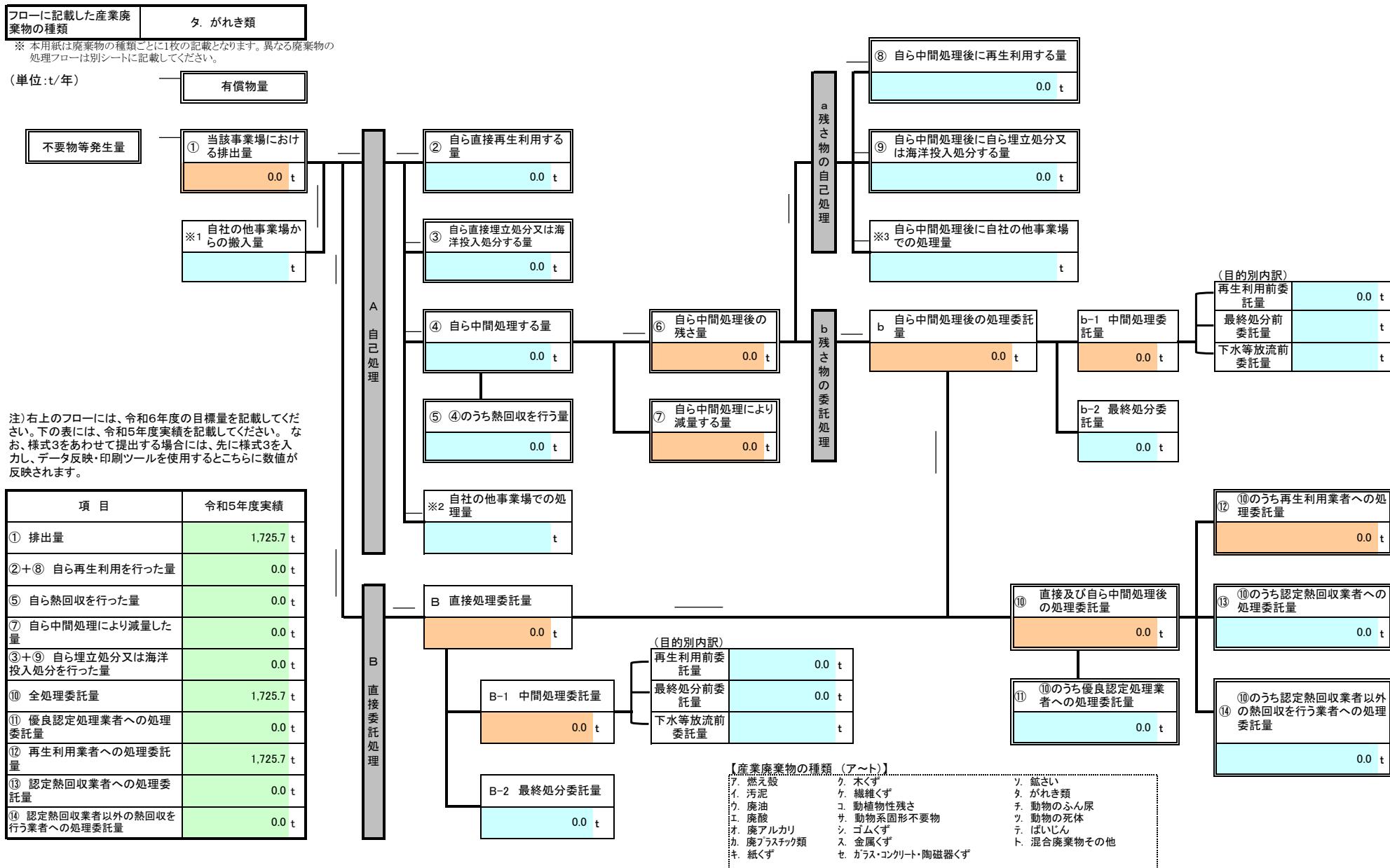
産業廃棄物処理計画書

2-2	法定 ○	自主
-----	---------	----

事業場名称 : 岩田地崎建設株式会社 東京支店

別紙処理フロー

令和6年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画



産業廃棄物処理計画書

2-2	法定	自主
	○	

事業場名称 : 岩田地崎建設株式会社 東京支店

別紙処理フロー

令和6年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	ト 混合廃棄物その他
※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。	

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(单位:t/年)

